

平成23年10月26日公表

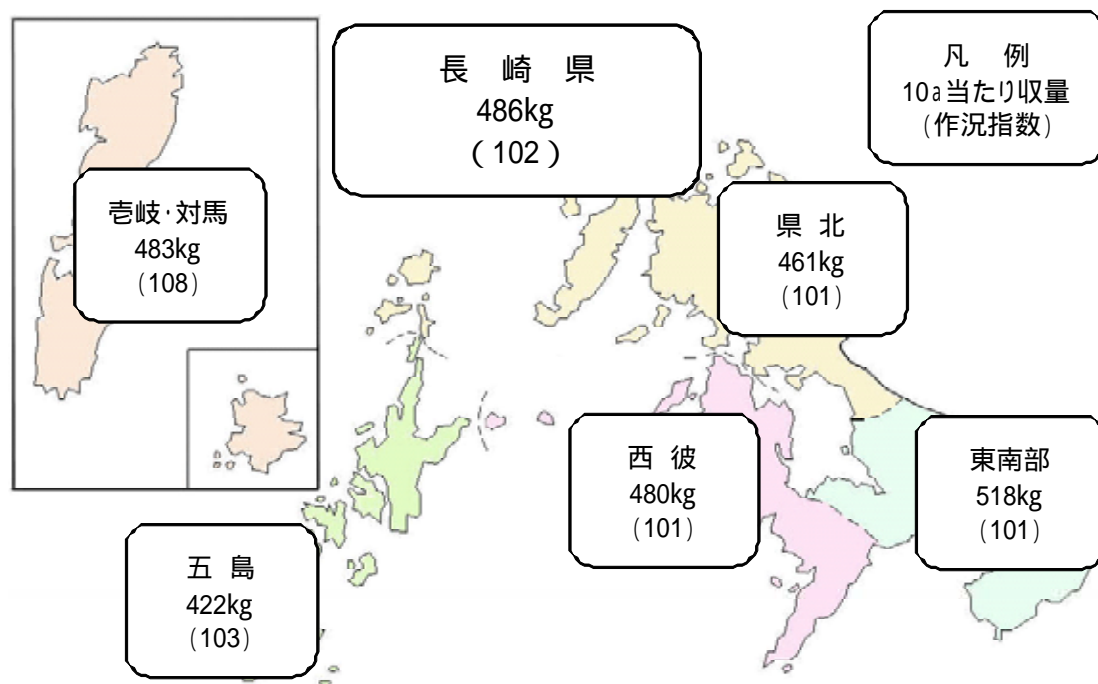
平成23年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在） （長崎県）

— 10 a 当たり予想収量は486kg(作況指数102)の見込み —

【調査結果の概要】

- 1 長崎県における平成23年産水稻の作付面積（子実用）は1万3,700haで、前年産に比べて300ha（2%）減少しました。
うち、主食用作付見込面積は1万3,700haが見込まれます。
- 2 10月15日現在における水稻の作柄は、10 a 当たり予想収量486kg（作況指数102）が見込まれます。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は6万6,600tが見込まれます。
また、主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は6万6,600tが見込まれます。

図 水稻の作柄表示地帯別作柄概況（10月15日現在）



この資料は、以下のアドレスからご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/nagasaki/tokei/sokuho/index.html> 】

表1 平成23年産水稲作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

区 分	作付面積（子実用）			10 a 当たり 予想収量	予想収穫量（子実用）			（参 考）			
	実数	前年産との比較			実数 = ×	前年との比較		主食用作付 見込面積	予想収穫量 (主食用) = ×	10 a 当たり 平年収量	作 況 指 数 = /
		対差	対比			対差	対比				
	ha	ha	%	kg	t	t	%	ha	t	kg	
長 崎 県	13,700	300	98	486	66,600	3,700	106	13,700	66,600	476	102

注： 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む)から、需給調整の取り組みとして取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積(見込み)です。

【解 説】

1 作付面積

水稲の作付面積（子実用）は1万3,700haで、前年産に比べて300ha（2%）減少しました。これは、子実用から青刈り用へ移行したことによります。

2 作柄概況

全もみ数は、7月中旬以降多照で経過したことから、分けつが促進され穂数はやや多くなったものの、1穂当たりもみ数がやや少なくなったことから、平年並みとなりました。

登熟（実入り）は、9月下旬以降最低気温の低下や適度な降雨はあったものの、9月下旬からの断続的な日照不足により登熟が抑制されたことから、平年並みが見込まれます。

全もみ数が平年並みで、登熟も平年並みが見込まれ、また、被害が平年よりやや少なくなっていることから、10 a 当たり予想収量は486kg（作況指数102）が見込まれます。

3 予想収穫量

以上の結果、予想収穫量（子実用）は6万6,600 tが見込まれます。

また、主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は6万6,600 tが見込まれます。

4 被害状況

気象被害は、9月19～21日にかけての台風第15号の強風により、県北部を中心に潮風害の発生が見られます。

また、9月下旬からの断続的な日照不足により登熟が抑制されました。

病害は、紋枯病、いもち病の発生が見られます。

虫害は、コブノメイガ等の被害が散見される程度で、平年より少なくなっています。

表2 平成23年産水稻10月15日現在の作柄概況（作柄表示地帯別）

区分	10a当たり 予想収量	(参考)		刈取期					穂数の多少 (平 年 比 較)	1 も 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	刈 取 済 面 積 割 合
		10a当たり 平年収量	作況指数 = /	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の遅速						
							平年 比較	前年 比較					
県平均	kg 486	kg 476	102	月日 8.25	月日 10.11	月日 ...	1日遅	1日早	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	% 67
西 彼	480	477	101	9.25	10. 2	10.10	並み	並み	平年並み	やや少ない	やや少ない	良	98
東 南 部	518	511	101	10. 2	10.13	...	並み	1日早	やや多い	やや少ない	やや少ない	やや良	57
県 北	461	458	101	8.21	10.12	...	1日早	3日早	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み	62
五 島	422	408	103	8.16	10. 1	10.13	4日遅	1日早	やや多い	やや少ない	平年並み	やや良	99
沓 岐 ・ 対 馬	483	446	108	8.26	10. 3	10.15	6日遅	7日遅	平年並み	平年並み	平年並み	良	96

注：1 刈取期の始期、最盛期、終期とは、刈取済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。
2 表中の「...」は、10月15日現在において、その期日に達していないことを示しています。

区分	作柄表示地帯に包括される市町
西 彼	長崎市、西海市、長与町、時津町
東 南 部	諫早市、大村市、島原市、雲仙市、南島原市
県 北	佐世保市、平戸市、松浦市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、小値賀町、佐々町
五 島	五島市、新上五島町
沓 岐 ・ 対 馬	対馬市、沓崎市

【参考 1】

平成23年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳（概数値）

この調査における収穫量は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、ふるい下の流通実態を踏まえ、玄米の収量基準は粒厚1.70mm以上で農産物検査規格の三等以上の品位のものとしています。農家等が選別に用いる目幅は産地・品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量の概数値を示すと次のとおりです。

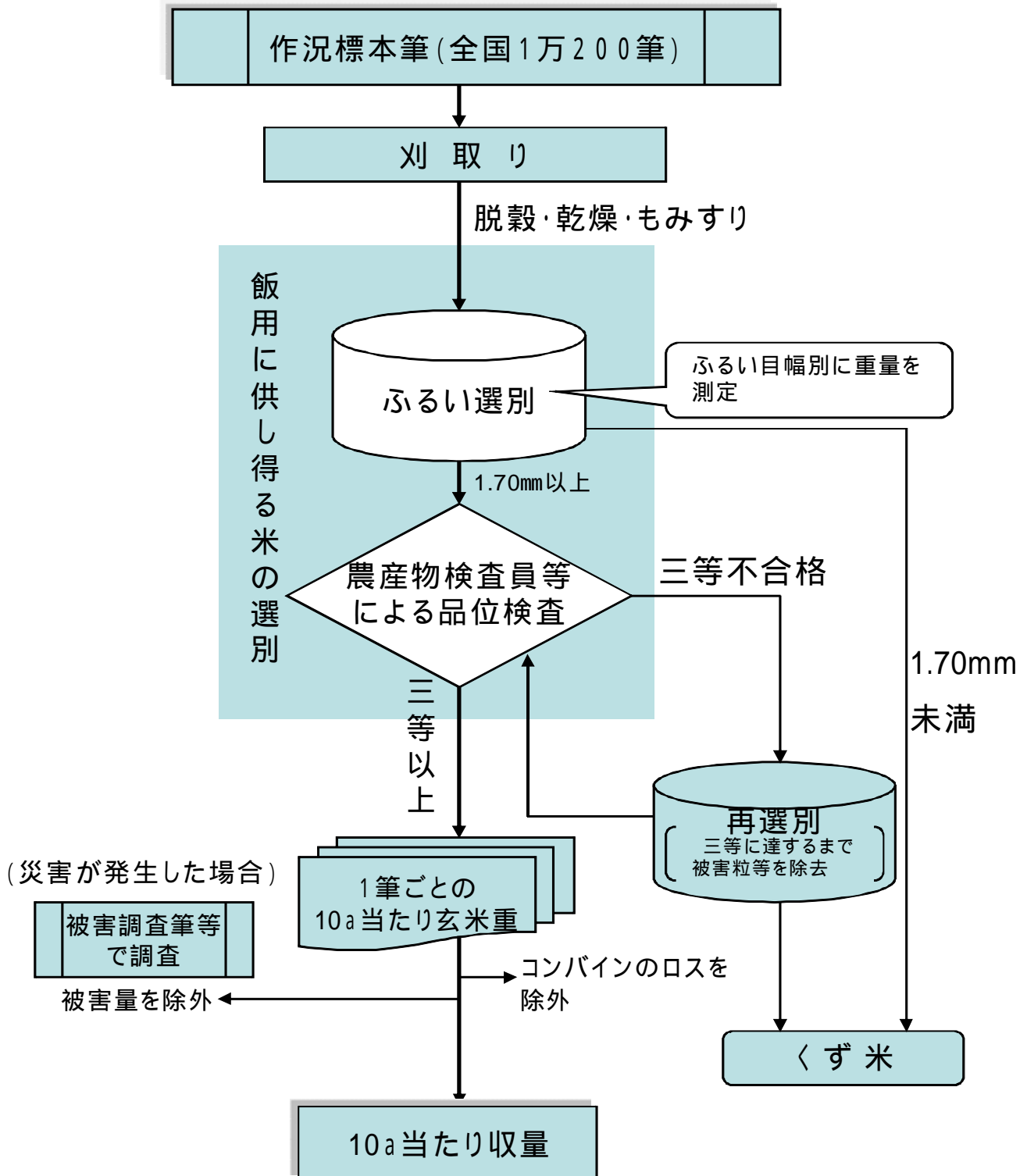
単位 { 重量割合：%
収量内訳：kg

区 分	合 計	ふるい目幅					
		2.00mm 以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
県平均							
重量割合	100.0	60.0	28.4	5.7	2.9	1.9	1.1
平均対差	-	2.6	1.5	0.5	1.8	1.0	0.8
(収量内訳)	(486)	(292)	(430)	(457)	(471)	(481)	(486)

注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。
2 (収量内訳)の合計は、県平均の10a当たり収量、ふるい目幅別は、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量です。
3 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物検査規格三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

【参考 2】収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



累年データ

水稻（子実用）の年次別推移（長崎県）

年産	作付面積 （子実用）	10a 当たり 収量	収穫量 （子実用）	参 考			
				主食用 作付面積	収穫量 （主食用）	10a 当たり 平年収量	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	kg	
平成元年産	19,600	456	89,400	426	107
2	19,400	443	85,900	429	103
3	19,000	296	56,200	433	68
4	19,500	456	88,900	433	105
5	19,600	329	64,500	436	75
6	19,900	468	93,100	436	107
7	18,800	467	87,800	436	107
8	17,600	468	82,400	436	107
9	17,200	444	76,400	438	101
10	15,700	468	73,500	444	105
11	15,600	402	62,700	456	88
12	15,200	480	73,000	461	104
13	14,700	485	71,300	461	105
14	14,400	473	68,100	467	101
15	14,200	448	63,600	468	96
16	14,500	430	62,400	471	91
17	14,700	450	66,200	473	95
18	14,700	322	47,300	474	68
19	14,600	472	68,900	474	100
20	14,300	480	68,600	14,200	68,200	474	101
21	14,100	479	67,500	14,000	67,100	474	101
22	14,000	449	62,900	13,900	62,400	476	94

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む)から、需給調整の取り組みとして取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積です。
 2 「...」は事実不詳または調査を欠くものです。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稻作付面積調査及び水稻予想収穫量調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査客体数

(1) 作付面積調査

標本単位区：636単位区 巡回・見積り：21市町

(2) 予想収穫量調査

作況標本筆：150筆 作況基準筆：22筆 巡回・見積り：21市町

3 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：10月15日現在

4 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

5 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

(2) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

(6) 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較で、次のとおりの区分で表したものです。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

(7) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

(8) 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

6 利用上の注意

本調査（10月15日現在）は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行っていますが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測しその後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。

したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

問い合わせ先

本統計調査結果について

九州農政局 長崎地域センター

電話：(代表)095-845-6228 内線421
(直通)095-845-5236

農林水産統計全般について

九州農政局 長崎地域センター

電話：(代表)095-845-6228 内線401
(直通)095-845-4217